

KODAK COLOR CONTROL PATCHES
LICENSED PRODUCT
© The Titen Company, 2000



奇談 諸國

西游記

三

ル 3
3984
3



163
3984
3



<99-1013>



西遊記卷之三

長江の猿首

肥前國大村に沙城下と申すところありて名物し終るを思ふなり
小船をとり流に流んで長江と申す所の海にぬれ船内肉よ
りもや敷に入らぬもの常國と申すぬ猿のきふ夜に入らぬ
船も水んとも月川と申すところハ船内此と申すべの家あり
とて川の岩なるを舟送る入るぬりや會うくつがききあせ
屋なりしととと一夜の宿ありあつたの書ゆくとてとて
船くとも流に流すそぎなととと打く津波が夕の會ふ
ととと取まらぬとととひととと取まらぬととと

西遊記 卷之三

不意は事いあひて力多くとれりきんむうのいんむうら
我亦なるいりもどき波あれきうのひて体更しくんと物んぶ
海にのひて多敷か粉の火あるととくあゝ異ううり力と海
てきううりたりなる櫓船とあつていつとちいさく管かゝ
さかけうり月をくまうくすこし夜風まゝしく吹流りてこ
一棹さるせううなう一舟引海にゆめさそり来とそめ
ぬに若うと先さるハいかにゆめをたれと又風氣のおとゝあ
まにをなくさそりゆりまう小待秋移くまけく陸にハ程
いさかひ中ぐ大務打合ひぬきと川中に居ううを居る
あやうゝとあうげさそりと愛むすづくゝとあゝ福を和と

すめく月と雲庵とをたがひ見居るがゆかきき秘あは露れ
きそのて風いと世中へぬすまきううとひーかどまん
き中うとあうて管のわがきそくぬきと目とありすうかう
すうちん夜の夜のうーか程の中をさうううまきハ山うり
ら引海一ちの夜の花中うなまの草鞠引むすびと會とせば
よりせまぬ滅に遠路のなうひあつとあくと又たううりた

山女

日向水飲肥領の山岸はくときき奉薙道引あそあ中きまの
とれうり趣身女の形あゝと色津の介に合くまき髪をく
て赤裸うううに似くゝふあゝの穢人とそは成アなく大を纏ら

あやしくし人ふ忍びらる山の新ありとつふあはれ後の生るを
 とのりせり〜と忍びらる〜とせびままわ〜と捨置ぬる人
 きてて麻布果る何の生るを〜と尋り〜とたう又人の
 つひらるは是ハ山女とつふとのあそび山女あそび〜との
 たりつり想ふ彼造り〜と荒乃ら〜とののと作て歌と
 らる〜とあそび〜と遊み〜とウヂとつふまを〜と考人初りて
 まあ〜らとあそび〜と端ハ弓矢〜と考く機実なる機
 ちと〜と皆けら〜と多〜とねゆ〜と〜と誠小造り〜と怪
 ぬとのこと〜と〜と供〜と九多あ〜と天物此〜と海流〜と
 鬼物造り〜と生人〜と〜と〜と四多〜と天物多〜と〜と小仔細此
 造り〜とあ〜と〜と〜と山あ〜と是〜と根多〜と〜とたぐ
 わと〜との風吹に〜と〜と多〜とあ〜と

求麻川

肥後求麻川と九多あ〜との急流なる源を〜と那須推察
 山を村造り〜と四千里〜と〜と流れて〜と海に大河と〜と
 求麻郡此〜と津を〜とね〜と求麻の人々の城下と〜と八代に
 迎り肥後の海に入る事〜と陽路あ〜と相良此〜と津舟あ〜と〜と流
 と〜とぬれと〜と〜と〜と軽〜と人〜と〜と〜と〜と或人に松人
 二人都合人〜と〜と〜と〜と〜と海不死〜と〜と八代あ〜と十六里
 の川を〜と二時小下り〜と〜と〜と〜と二月乃〜と人あ〜と〜と春水

時ふるまに人吉の城下青井の宮に船より船に寄る送別
此人々おびせりし打集り名流の懐りあとななりなり
百森右向のふしを船に寄り移りて潤着なと携へ艦を解
ハとともうりれ流流に送るの人々、八鹿の中に入りて振る
とともうりしなひぬ重きうあつめなりすあは流うと云
あまてりぬ人々、はまぬ名流をうめりの悟治とまを
らびあうりしうりぬとともいひはくまともなりぬ
となりぬ人々とと襟とともなりぬとともなりぬ
難そ又あまゆりしうりぬとともいひはくまともなりぬ
とともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
に橋と付るし先は流流に大雲流流のわたりしなりぬ
なりぬれ橋ありしなりぬとともいひはくまともなりぬ
付るしなりぬ流流の先の橋と付るしなりぬとともいひはくまともなりぬ
あ方に船と先なりす又中流に橋と付るしなりぬとともいひはくまともなりぬ
あ後に船に初なるなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
次舟と橋る流流の逆風なりしなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
とともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
とともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
とともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
とともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
とともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ
とともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬとともいひはくまともなりぬ

リと船と離れて山に登りて峻巒の隙を頼りて又船
 よもやうなわとなり予といと移りてくまのぬもく興りし
 とき既に船と船に交りたるなりけりぬもくも目さぬもくも
 業此乃の身をふあし海うようひらきあふ山ありて時
 て岸を頭の上を除き流も流せぬもて細く怪教説く
 て屏風をきき先かかしく燈を付たるなりけり話の勝るごと
 く柳子の語りかしく或は難樹が庵を中ふ入るかとまを
 は松林森くする岩の隙に或は山吹の散りたる躑躅の花
 持るひらゆる山吹のこころ指とあらしをわするの意も色鮮と
 先ぐらす小あらしぐいあふ只たるかしくあらしをまき向う軽

舟渡り百靈山と海をわたりて後あをれといひあらし彼巫峡
 の急流の庵におりてありて舟のりもするや疾風迅雨と及ぶ
 波といふといふも是ふはぶんやと身入つて一絶句を作る
 る記のまゝ 神なく八代の舟もとのの里もあはれ海の中
 のまき事今と志もくく一日向う水麻ふ入るくくくく
 ありて急流を航しけるなりて舟をうくるなりて日次の舟
 りていと難く水麻の舟を極海の中ありて度夫の平舟に
 別ふ一世界のよき仙遊といひありて舟をいれ入る日向日
 か難文ははといひ水麻川船と二乃のこなるけ川の傍に山吹
 花をよとと流るるありて舟をいれ入る相良庵ありて事記

事勅の時とはいひし如くやうきとありてお中の西とて皆
船をう減ふ船百里の海とて船とて東武にわたりて船とて
中北人くとて事勅の時とはいひし如くやうきとありて
にありし如くやうきとありて船とて船とて船とて船とて
の中の人とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて
と船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて
ろく船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて
が船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて
船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて船とて
船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と

龍門の遊

遊と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
ととと船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
遊と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
あまことと船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
手いことと船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
は船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と
ちりことと船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と船と

十百本と云ふくさうしは地の人にはおのづからゆふ幅
 十間ありし我もハ馬作のあつたをうへし物ととて激お
 思ひしれ激おとて格下は外に驚き予は格しと云ふと云ふの
 ほうこの事なりしは激の中より虹殺半條能く綿と激と
 るがとて激お思ひなり激を激しけ中ふたなる電をえ
 激をうへし甲の目よりやめる事なりけ地の人ハ毎毎なる
 ちとて格下平漫格のるおをて激おくハ是をて一とす
 物ととて格下は格下をてハ是をて格下人なりけ物
 一とて格下又肥後を激の山中よりえたるの激とて物と
 けう激の激よりハ是をてと又なるれ激をう激のよ



り十石箱の村本と流し流す小流を海へ流し
流す流し流す流し流す流し流す流し流す
くしとやりくし流し流す流し流す流し流す
十石と流し流す流し流す流し流す流し流す
る流し流す

山童

九石極西南北流し流す山童と流し流す
ききし流し流す山童と流し流す山童と流し流す
形たる流し流す山童と流し流す山童と流し流す
のとき流し流す山童と流し流す山童と流し流す

物と流し流す山童と流し流す山童と流し流す
おのた流し流す山童と流し流す山童と流し流す
中し流し流す山童と流し流す山童と流し流す
しと流し流す山童と流し流す山童と流し流す
てよく流し流す山童と流し流す山童と流し流す
と流し流す山童と流し流す山童と流し流す
りて後に飯と流し流す山童と流し流す山童と流し流す
は飯と流し流す山童と流し流す山童と流し流す
と流し流す山童と流し流す山童と流し流す

なり。惣括一或は大病に落し或はさるる俄に火と人おるを種
こ此驚害起りて祈禱助業とあり。けのりけのりけのりけ
おれれとさうやまうしん。事なりけとの品ありの造
憚れのうらうらと他あふまると成はるけさうり事多し
ろとひあふ山ふあうし山探しひ長を川お怪し川を赤
とつめと或人の流るれ流る川を赤と回めありて。よ
り時あうらる名の書るるとのめ

玳瑁

玳瑁は南海の海中に生く。甲戌阿婆院人物後
り婦人の臥の飾り。櫛くけいとありて。さるる事

金むけ飾り。日本やと。玳瑁あり肥前。海軍の海軍。海
薩州の南海大隅。玉壺水の海中。やと。是ありて。海軍に
まて人作ありて。それより。たなるとのめ。故に。甲戌。海
櫛ふ。けうけう。一。只。も。衆。るとの飾り。又。珊瑚。珠。と。経。野
の海中。より。あ。り。是。と。あ。あ。り。て。結。り。る。と。の。ま。あ。ら。造。り
ぐう。一。あ。も。成。以。く。足。さ。る。事。お。う。海。う。あ。ら。海。軍。と。海。軍
あ。と。く。わ。く。海。軍。と。あ。ら。あ。ら。う。と。の。と。あ。ら。う。と。の。海。軍
と。海。軍。海。軍。あ。ら。う。海。軍。と。あ。ら。う。と。の。海。軍。と。海。軍
遠。不。指。さ。う。海。軍。と。と。海。軍。と。あ。ら。う。と。の。海。軍。と。海。軍
この指さうらうと。と。海。軍。と。あ。ら。う。と。の。海。軍。と。海。軍

大筆と云は清く静く一光流るるようふまか細玉の多しふ
如くは庭物も操くを修らふはまじれぬようハあまののぬ火
うすハ指もくろを平公雲して人の工と成てふまか細玉の
一足也

肥後の志保の代の萩麻川と云うの尾の事ハ里ありて神の
湫の岩戸より小あありて下の事おなりてうすハ岩戸を修ら
ふまか細玉の多しふまか細玉の多しふまか細玉の多しふ
の湫に到る神の湫の神を諸方が細玉より大抵事内へをま
まの事と云ふ事ハ麻川の小川より少し入る事すたれぬ事
たて細く苔は緑くハたて細く山石の法をいやくかありて

此先きゆをそけなりやと谷深く入極にいとくをゆくと
志保にににいと付ねおんうよりを修らうの湫にをまか細
玉は此口の湫くうるとく南へあくる事ハ産まるとい十口ハ
石のうとやまふんよよりを石産乳はまか細玉の事
く産まるといとくは修らうのひりたる事ハ此はうの事
に如くはまか細玉の事ハ産乳の事ハ島にうと
産ありて背中まか細玉の尾みどりく金作燕お似たりけ
る事ハ一足なり世界の事ハ此は岩戸の事ハよりに生きたる事
たうと云ふ事ハ産乳の事ハ産乳の事ハ産乳の事ハ産乳の事
くまか細玉の事ハ産乳の事ハ産乳の事ハ産乳の事ハ産乳の事

初と元定光のついでに光産の津の傍りに先なるといひ傳
 へてさうしありしうけしき成りし時をいふに村をくの出立
 リて大風浪の度痛の致大變をうきと民のなげきしを
 切らうと人にけし地の人をとおもてはくしに数か渡り
 卯辰日申未申に一足の高あつ事とさめず唐西めくこと又
 弟らうし一帯代のちとりのべー板付書の中へ入るる武
 二年辰未のうきをいふ事きうけあしりあさるるに唐さゆふ
 明くはゆあうりのおさうやん曲う口の唐さく三四名をあう
 此宛あうけ中をくし記事存のちしとあうくし心成るる先
 空南にちすけうてけ中をくし向の人は十名をあうことや

五ふんりとはま巻うう筋のちへくし返す切者ううとめを流
 しと流するハの御ととさうううしとの方といひ御さる
 記やう津らあしとさる御めうす程久長御成るるめ底のち
 とさるるに遠の底に鏡のちとさうめくとのちを是水とさ
 海と元と二千百とさるる也同くさめ此是ゆりうく久長ハ
 元とと失くしとさうくへ退ぞ大播に是と問のよけはるる
 泉とさあううて清濁なるめ此底の海さるむうしうり御
 ちるし水とさてと二千尋の繩とちけて程とさ記くしとさ
 け出ず此中御神の清原和なり海は奇怪のちと根子華の及
 小西にありす平陸に移る年此縁と奇陸に流眼成好む事

ろのりとならなむと云ふやうにかくれはしき青島のおと見平津島
 牛也寸草亦よあはしとあそんでて足ぬ人とはあやうく
 とあつる海山遊舞の化なむと云ふ名も人あやうなるが別
 まにとあつるハチのうらまへ今又あふとあやうなるれまにたふ
 人必し玉ころんねへー

け一足も耐を以てあつてと云ふやうにこつていつと
 子守時あつるといふやうに
 びとてこつと居る又け靈泉と云ふ名もあつと云ふ
 汲汲と飲時と云ふ名もあつと云ふ名もあつと云ふ名もあつと云ふ

麩香扇

薩州鹿耳門城下の麩香扇といふものあり多く今までの
 と麻の下あとのほろと形靭扇といふ其業志野かざら
 やの此の白ひは似たり 在る麩香扇といふ今食肉と云ふ海
 り益減をあらはせし今あつる常の扇よりあつる腰板飯
 むじりにけ扇といひ入る時とま白ひるくを幾分はひきひ
 きしと云ふずけ扇又産をくむら時とま白ひの鼻と雲て
 きへくくく極なりまの産まもあつて産の産に似たり
 そとへ入中山傳信録に琉球の扇を産の産あつと云ふ
 け扇といふと琉球の船より渡りあつる今あつる城下町

おとくはまききりて感てうとくおを病中と唐船より御く
来りて町家中と多くありされと薩長御とまうとひま
の玉少てと生くくなき嵐より一候不阿茶院人とは嵐とい
て病う合せぶやくて法造る法ありといの御不秘法あり
唐船よりと多く人き御の法とて月ひあり嵐なり

妻大

不法中とめらう候るに山中の人を長令なり御追の令
難余なり事終の人を瘧疾のこもく梓物終らま橋なり長
崎少い事多くしと事終の二双信と二つの人しき由
元成老あはれ念為のゆにあり山中けんと魚肉なるも六

常に芋大根のれのを鎌食すとし一年始前向を介秘ひ
目としくとと富と終と終と堆着乾物と八つとととよまふ
深谷に登りりて耕作は月と雪し終は麦飯に饑乏の
く鎌食中くと才と働くお小長令中と事病なり御追の
人との魚肉に飽満と飯のあつちとと事終鎌食し船の安入り
て法中の運漕よりりしと事終鎌食す事自由なりゆに多
此中とけお小麦飯と事食せひと事小飯の働の苦勞ハ
多く船中と性来中と事ありて事終の利ありと事ハ自
強と才と安くしと事ありてにくらす事病なりと事鎌食
なり和文山中と人の性来事自由ありと事鎌食外なるも六

あま女控置と云く 濕毒付殿の憂と云く 海邊の何れも
と云く 通海の何れも 縁に華繁ありて 花女ありて なる所と
云く 人下は 濕毒付く けり 且又 塩風は 濕毒付く 肉介
より 痛成ゆ 喜ひ 知事成り 腎付く しい かなる
壯実の生も 付と しくと 經命 病身 なる ざる 事あり けり
是山中と 海邊の 壽夫の 遠ひ 乃 根付 なる 長渡の 天下 中一
に 魚肉 多く せん 少く 煙菜の 煎り たりと 中 なる 秘なる 不
人 居り 魚肉に 遠ひて 飽腹 且又 唐人の ソン ありと 云
習ひ 何の ありと 云く と 油 あげ なる 厚味 ありと 食す 事
上 金銀の 通利 換ふに 宜敷 人 皆 歡樂 ありと 世を 渡り 事

あま 日 飲 品 飲 食 の 事 と 樂 しく 有 と 働 き 富 血 成 然 しく
す 事 あり 是 皆 種 物 此 類 の 事 多 根 付 なる 事 あり 人 皆 業
と 云く 小 津 と 先 身 と 働 き 海 邊 と 云 なる 不 魚 肉 換 あり 事 科
ありて 卑 賤 の 者 と 求 め たり 有 小 作 以 遠 び 常 に 兼 食 之
瘡 疥 の 類 あり かつ 病 あり なる 事 あり と 繁 花 の 地 の 人 皆
毒 の 憂 あり 目 あり 多 あり 事 然 り ありと 痛 あり 者 多 あり 似 たり
り たり 深 本 あり たり 且 其 比 と 長 壽 と 得 たり あり

神樂

余々 成人 燈 夜 余 におし 是 なる 日 向 小 舟 渡 船 中 村 小 花 の
以 之 化 之 増 産 あり 驗 驗 亦 百 數 あり 乃 性 質 律 事 以 之 あり

と浴衣も拭きしり小指のひさすけに遊びとま
 波を敷き打まくるまうしる田舎をまよと御子くらとくち
 一河のうしろも中一推しりるふをた移れ袖揮ふ事なりん
 一とふのまのしるまうしるまほまことまほまほまほまほまほ
 りるれま音信地まことまほまほしるんおのまやまらまほ
 子者とま小舟に揮まうまうま大まほまうま中へ油まわおら
 才たけほまの昔まうまらま神のまほりくままらま漁人の船
 まんとあせびまうまうまらまらまうまらまらまらまらまら
 りまらまをををををををの大雅ゆまらまらまらまらまらまら
 おの人まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

海まを何まの者まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一神威とまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一お極のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 解まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一と神のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一と逃まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一とつらまら風まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一お物まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一おまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一おらんとまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

西遊記 卷之三 十一

彼亦よくよくとて年記せばこころよく答へて人あはれしく
 らんぢまの好人ととてあはれに老をわの志をとな路に連累
 りて舟成はるまきせまのふかきおあへりあはれとゆふ
 けりんごんに會釋し扱きまのふかきおあへりあはれとゆふ
 終りまをせしをたかひふと事よ程をたかひに計をけし
 沖苦等と難中あはれに老をわの志をとな路に連累
 に意申にけし神の手記をたかひに計をけし
 秘ししと神系をたかひに計をけし
 掲げて身成るまきせまのふかきおあへりあはれとゆふ
 く彼亦よくよくとて年記せばこころよく答へて人あはれしく

あまがばは神の志をとな路に連累
 の夫れハ由りてとて年記せばこころよく答へて人あはれしく
 今つ知まげて神系をたかひに計をけし
 邦の者も今あはれに老をわの志をとな路に連累
 ハせひまをせしをたかひに計をけし
 く神系をたかひに計をけし
 ひまをせしをたかひに計をけし
 寧ふとて年記せばこころよく答へて人あはれしく
 リまをせしをたかひに計をけし
 海とまをせしをたかひに計をけし

